

旭川市廃棄物処分場資源物搬入マニュアル案

1 適用

本マニュアルは、旭川市廃棄物処分場（以下「処分場」という。）において、旭川市リサイクルセンター（缶・びん等資源物中間処理施設）、旭川ペットボトル中間処理センター（ペットボトル中間処理施設）、REPLAファクトリー（プラスチック製容器包装中間処理施設）及びACPRファクトリー（紙製容器包装中間処理施設）の事故等に伴い、資源物を搬入する場合に適用する。

2 家庭系の資源物

資源物を仮置きする場合、「旭川市廃棄物処分場可燃ごみ搬入マニュアル」に準じ、原則として搬入から 30 日以内に各中間処理施設への搬出が完了できる分を仮置きとし、それ以外は埋立処分とする。

ただし、旭川ペットボトル中間処理センター及びREPLAファクトリーにおいては、過日の資源物を処理する余力がないため、ペットボトル及びプラスチック製容器包装については仮置きせず、埋立処分とする。

(1) 缶・びん等資源物

搬入から 30 日以内に旭川市リサイクルセンターへ搬出できる仮置き日数は、旭川市リサイクルセンターへの搬出開始日から逆算して 11 日間分（土日を含む。）を目安とし、12 日目以降は 1 日目の搬入分から埋立を開始する。

14日間の缶・びん等資源物を搬入した場合

搬入（14日間）														搬出（18日間）																	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
埋立		仮置き(11日分)										11日間分の仮置きした缶・びん等資源物を搬出するのに18日間程度かかる																			
		搬入から搬出まで30日間程度																													

搬入開始から12日目以降は1日目の搬入分から埋立を開始する

(2) 紙製容器包装

搬入から 30 日以内にACPRファクトリーへ搬出できる仮置き日数は、ACPRファクトリーへの搬出開始日から逆算して 11 日間分（土日を含む。）を目安とし、12 日目以降は 1 日目の搬入分から埋立を開始する。

18日間の紙製容器包装を搬入した場合

搬入（18日間）																		搬出（14日間）															
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14		
埋立		仮置き(15日分)																15日間分の仮置きした紙製容器包装を搬出するのに14日間程度かかる															
		搬入から搬出まで30日間程度																															

搬入開始から18日目以降は1日目の搬入分から埋立を開始する

3 事業系の資源物

対応については、「2 家庭系の資源物」と同様とする。

4 資源物の搬入量

(1) 缶・びん等資源物

想定される搬入量は全て家庭系であり、旭川市リサイクルセンターへの搬入量から算出し、缶：約 18.7 m³/週、びん：約 75.2 m³/週、家庭金物：約 1.4 m³/週、紙パック：約 5.7 m³/週とする。

なお、埋立処分する場合の埋立量は、覆土を考慮し缶：約 26.1 m³/週、びん：約 105.2 m³/週、家庭金物：約 2.0 m³/週、紙パック：約 8.0 m³/週とする。

旭川市リサイクルセンターへの 週平均搬入量 (R7実績)		体積換算 (係数) ※1	覆土含む (1.4倍) ※2
缶	21.1 t	18.7 m ³	26.1 m ³
びん	37.6 t	75.2 m ³	105.2 m ³
家庭金物	1.6 t	1.4 m ³	2.0 m ³
紙パック	1.7 t	5.7 m ³	8.0 m ³
計	62.0 t	101.0 m ³	141.3 m ³

※1 缶1.13t/m³、びん0.50t/m³、家庭金物1.13t/m³、紙パック0.30t/m³

[出典：(公財)日本産業廃棄物処理振興センター]

※2 ごみ50cm毎に覆土20cm

(2) ペットボトル

想定される搬入量は、旭川ペットボトル中間処理センターへの搬入量から算出し、家庭系：約 277.4 m³/週、事業系：約 56.1 m³/週とする。

なお、埋立処分する場合の埋立量は覆土を考慮し、家庭系：約 388.3 m³/週、事業系：約 78.6 m³/週とする。

旭川ペットボトル中間処理センターへの 週平均搬入量 (R7実績)		体積換算 (係数) ※3	覆土含む (1.4倍)
家庭系	27.8 t	277.4 m ³	388.3 m ³
事業系	5.6 t	56.1 m ³	78.6 m ³
計	33.4 t	333.5 m ³	466.9 m ³

※3 0.10t/m³ [出典：(公財)日本産業廃棄物処理振興センター]

(3) プラスチック製容器包装

想定される搬入量は、REPLAファクトリーへの搬入量から算出し、家庭系：約 1,047.9 m³/週、事業系：約 5.3 m³/週とする。

なお、埋立処分する場合の埋立量は覆土を考慮し、家庭系：約 1,467.0 m³/週、事業系：約 7.5 m³/週とする。

REPLAファクトリーへの
週平均搬入量（R7実績）

家庭系	104.8 t
事業系	0.5 t
計	105.3 t

体積換算
（係数）※4

1,047.9 m ³
5.3 m ³
1,053.2 m ³

覆土含む
（1.4倍）

1,467.0 m ³
7.5 m ³
1,474.5 m ³

※4 0.10t/m³ [出典：（公財）日本産業廃棄物処理振興センター]

（4）紙製容器包装

想定される搬入量は、ACPRファクトリーへの搬入量から算出し、家庭系：約161.8 m³/週とする。

なお、埋立処分する場合の埋立量は覆土を考慮し、家庭系：約226.6 m³/週とする。

ACPRファクトリーへの
週平均搬入量（R7実績）

家庭系	30.8 t
-----	--------

体積換算
（係数）※5

102.5 m ³

覆土含む
（1.4倍）

143.5 m ³

※5 0.30t/m³ [出典：（公財）日本産業廃棄物処理振興センター]

5 埋立容量の余裕

埋立処分する場合は埋立容量の余裕の範囲内とし、それを越えると予測される場合は部内で対策を検討する。

埋立容量の余裕（R7.10末時点）

残余空間の測量による算出

埋立容量	1,840,000 m ³
残余容量	348,061 m ³
年間埋立量※6	45,540 m ³



余裕※7
146,926 m ³

※6 過去10年の平均

※7 R12.3月埋立終了

なお、埋立容量の余裕146,926 m³から算出すると、各資源物全量を埋め立てる場合の搬入可能期間は、缶・びん等資源物（141.3 m³/週）で約239か月、ペットボトル（466.9 m³/週）で約72か月、プラスチック製容器包装（1,474.5 m³/週）で約23か月、紙製容器包装（143.5 m³/週）で約236か月となる。

6 関係者への連絡

「旭川市廃棄物処分場可燃ごみ搬入マニュアル」に準じる。

7 現場対応

「旭川市廃棄物処分場可燃ごみ搬入マニュアル」に準じる。